

令和4年 第1回 産業建設委員長報告

令和4年3月15日（火）

5番、中島 秀明です

産業建設委員会に審査付託された議案について、3月7日、8日の2日間にわたり委員会を開催し、それぞれ慎重に審査を行いましたので、その経過及び結果についてご報告いたします。

議案第15号「令和4年度 岡谷市一般会計予算」中、産業建設委員会に審査付託された部分について、審査の主な点をご報告いたします。

所管する各部の執行体制については、産業振興部は、商業観光課、工業振興課、農業委員会を含む農林水産課、ブランド推進室の3課1室で組織し、正規職員40名、会計年度任用職員35名の合計75名。建設水道部は、都市計画課、土木課、水道課の3課で組織し、正規職員61名、会計年度任用職員67名の合計128名である。とのことであります。

それでは、款ごとに審査の内容についてご報告いたします。

はじめに、歳出、5款 労働費について、「おかやUIJターン就職マッチング事業」について、委員より、就職時のミスマッチがあると考え、予算編成にあたり工夫した点について質疑があり、岡谷市は製造業が多いことから、大学構内で行う就職マッチングイベントは、理工系の大学に絞って行う等、ミスマッチをできる限り解消できる策を考えている。とのことであります。

次に、「働きやすい職場づくり応援事業」について、委員より、経費の一部を助成するとのことであるがどのような経費を想定しているのかとの質疑があり、ソフト面では、事業所の就業規則の見直し等にかかる経費と想定しており、ハード面ではトイレ改修やスロープの設置などに要する経費を想定している。とのことであります。

次に、6款 農林水産業費について、

はじめに、「岡谷・シルクスイートオーナー事業」について、委員より、周知方法と収穫までの管理方法について質疑があり、2時間圏内の東京圏、中京圏に

お住まいの方をターゲットとし、ホームページやSNS等を活用して、周知を図ってまいりたい。また、「銀座ナガノ」などでもPR活動を進めてまいりたい。

栽培については、市が用意した圃場を活用し、農協職員や、県・市の農業関係職員で構成する岡谷市農業技術者連絡協議会が中心となり管理を行い、オーナーの希望に応じて、生育状況等も随時お知らせする予定でいる。将来的には市内農家の方もオーナー制度に参画していただけるよう取り組みを広げてまいりたい。とのことであります。

次に、「農林水産省共通申請サービス（eMAFF）導入事業」について、委員よりeMAFFとはどのようなものかとの質疑があり、農林水産省が所管するすべての行政手続きをオンラインで行い、ペーパーレス化や手続きの利便性向上を図るもので、国からの補助を活用し導入するものである。

令和4年度は、データ移行等が主な事業であるが、引き続き、パソコンが苦手な人や高齢者等に対しては導入後のフォローを行いながら、eMAFFの制度について、知っていただき、活用していただけるよう取り組んでまいりたい。とのことであります。

次に、「森林経営管理事業」について、委員より、森林経営管理制度モデル事業の進め方について質疑があり、現在、諏訪6市町村で進めているモデル事業から、来年度は、岡谷市内でモデル地区を選定し、その後、所有者への意向調査を行いながら、森林管理や整備方法等を検討していく。とのことであります。

次に、7款 商工費について、

はじめに、「商業振興事業」のうち「地域公共交通活性化協議会負担金」について、委員より質疑があり、県を含む行政、道路管理者、交通事業者、利用者等で構成する協議会において、新たな「地域公共交通計画」策定に向けて必要な調査等を進めていくものである。国からの補助を有効に活用し、乗降調査等を行う予定である。とのことであります。

次に、「DX推進デジタル化ツール導入支援補助金」について、委員より、岡谷市は小規模企業が多く、デジタル技術の導入に至らないのではないかとの質疑があり、景気動向調査の結果の中では、デジタル技術の導入を予定していない企業が約64パーセントを占め、市内の小規模企業の中には、どこから取り組んでよいかわからないと答える企業も多い。他方、今後、取引先企業からデジタルを活用した業務を求められるケースも想定されるため、まずは、ペーパーのデジタル化など小さなことから進めていくということが非常に重要と考えており、

市としても個々の課題や問題点について、丁寧な説明や協力を行うことで、補助の効果を高めてまいりたい。とのことであります。

次に、「岡谷市中小企業金融制度資金」について、委員より、岡谷市は工業のまちであるため、二酸化炭素の排出量も多いと考えられるが、新規に創設された「おかやグリーン成長対策資金」の魅力は何かとの質疑があり、5,000万円までの融資が可能で、年利が0.8%と低利なことが、魅力となっている。制度の創設にあたっては、金融機関へのヒアリングも行っており、時代に合った制度であるとのご意見もいただいている。とのことであります。

また、委員より、岡谷市のゼロカーボンシティ宣言による産業振興部の取り組みについて質疑があり、第2次岡谷市地球温暖化対策実行計画の中で、産業振興部では基幹産業である製造業への環境対策を中心に支援を行うこととなり、その取り組みの中で、「グリーン成長投資促進支援事業」の実績、成果についても、庁内の会議の中で取りまとめていくこととなる。とのことであります。

次に、「地域おこし協力隊 産業振興事業」について、委員より、応募状況等について質疑があり、令和3年度中に3名の応募があったが、最終的に採用まで至っておらず、引き続き、令和4年度の上半期まで募集を続ける予定である。地域おこし協力隊の採用後は、コワーキングスペースの活用はもちろんのこと、DX推進デジタル化ツール導入支援等についても、積極的に取り組んでいただき、地域活性化につなげ、地域力の強化にも取り組んでいただきたいと考えている。とのことであります。

次に、「新規受注開拓推進事業」について、委員より、新たな次世代産業へ進出を考えている企業の傾向について質疑があり、国が進めている事業再構築補助金に対し、現在、市内企業38社が採用を受けている状況にあり、うち10社ほどが新たに医療分野へ参入する等の計画を打ち出している。次世代産業への参入促進を一層後押しするため、しっかりと支援を進めてまいりたい。とのことであります。

次に、「岡谷シルク推進事業」について、委員より、シルクスイートもブランド事業に取り込んでどうかとの質疑があり、現在、岡谷シルクブランド認証制度の創設に向けた準備を進めているところであるため、その中で対応してまいりたい。とのことであります。

次に、「地域おこし協力隊 ブランド推進事業」について、委員より、応募状況

について質疑があり、令和3年度中に7名の応募があり、1名の方を選考し、4月1日から活動していただくことになるが、ブランド推進室はもちろんのこと、これまで活躍いただいたお二人の地域おこし協力隊の方にもご協力をいただく中で、地域に根差した活動ができるようにしてまいりたい。とのことであります。

次に、8款 土木費について、

はじめに、「道水路維持費」について、委員より、常温プラントの除却は、今後の道路維持対応に影響しないかとの質疑があり、簡易的なものは、常温で対応できる市販の材料で対応し、ある程度規模が大きなもの、業者から材料を調達することで、対応している。多少、材料費は増となるが、プラントの修繕費や安全性を勘案する中で、除却が必要であると判断した。とのことであります。

また、委員より、各区の土木要望をどのくらい取り入れているか質疑があり、各区からの岡谷市に対する土木要望は全体で108件あり、その内、維持修繕に関わるものは27カ所であった。令和4年度予算は、9カ所を個所付けした。とのことであります。

次に、「道路新設改良事業」について、委員より、目切公園調整池の機能強化について質疑があり、目切公園の調整池は、長地山の手土地区画整理事業に伴い設置された施設で、昨今の雨の降り方が設置当時と比べ想定できないほど、短時間に集中した豪雨となってきたことから、容量を越える状況が想定されたため、新たに排水管を設け機能強化を図るものである。とのことであります。

次に、「河川改修事業」について、委員より、改修河川の選定方法について質疑があり、8月の大雨による被災規模が大きかった「一の沢川」、「小洞沢川」、「又五郎川」の3河川を予算計上している。令和10年度までに、7つの河川の改修を行う予定である。とのことであります。

次に、「(仮称)諏訪湖スマートインターチェンジ整備事業」について、委員より、進捗状況について質疑があり、用地買収は100パーセント終了したが、工事の進捗状況は、盛り土が必要な箇所があることや、NEXCO中日本や県道との工事の関連もあり、8%に留まっている。引き続き、令和5年度の開通に向けて、関係各位と協力しながら進めてまいりたい。とのことであります。

次に、「都市公園等管理事業」について、委員より、蚕糸公園のリノベーションと旧庁舎の整備計画との関連性について質疑があり、蚕糸公園周辺は都市機

能が集積する中心的なエリアに位置し、多くの方が訪問する地域でもあるので、旧岡谷市役所庁舎の前庭的で、周辺の施設とまち並みが一体的になるようなオープンスペースとして検討協議を進めてまいりたい。とのことであります。

次に、「住宅団地住替事業」について、委員より、現状の課題について質疑があり、居住者への対応として、訪問等により建物の老朽化の状況や住替えの際の移転補償の内容に加え、使用料据え置きなどの支援策を説明しているが、居住者からは、金銭的な問題ではなく、長年住み慣れた場所であることや、高齢のため体が不自由で介護が必要であることなど、それぞれの事情がある。今後の対応として、個々の事情や状況を踏まえながら丁寧な説明に努め、ご理解を得たい。とのことであります。

次に、討論について報告いたします。

産業振興の面でも、また、建設水道関係の面でも概ね、市民が求めている大切な予算が盛られていると考えるが、商工業振興補助金については、多額の支出がされ、企業に現金が渡っていくこととなるが、岡谷市内の企業の中でも力のある企業へ多額の資金が支出されることは、頑張っている中小零細企業、小規模事業者との均衡を欠いているという部分で問題を感じる。また、地域経済牽引事業計画は、これもまた、力のある企業に対して、固定資産税の減免につながる筋道をつけていく、ということであり問題を感じる。

生活道路の改修整備等では、14ヶ月予算で見ると、ほぼ前年度と同額の予算となるが、生活道路の整備は、市民が強く求めている部分であるので、より一層の予算の計上が必要であると考えます。以上の理由から、産業建設委員会に審査付託された部分については反対をする。

一方、令和4年度予算編成にあたっては、三つの重点施策を掲げ、新年度は、第5次岡谷市総合計画の4年目となる。また、岡谷市工業活性化計画も、次の5年間を見据えた大切な計画年度となり、本予算は、必要な施策事業に財源を集中した編成となっている。

令和4年度は、誰もが安心して暮らせる岡谷市の姿を見せ、なお一層の配慮を要望する。

また、グリーン成長投資促進支援事業は、SDGsの目標13の気候変動対策の具体的な対策として重要な事業であり、ゼロカーボンに向けて1社でも多くの企業に浸透するよう要望する。

DXデジタルツール導入支援補助金事業は、「関心はあっても導入予定がな

い。」「そもそも導入は難しい。」と考えている企業が少なくないという、岡谷市の課題をしっかりと捉えた上で、各企業がそれぞれ取り組めるところから始めるとのことでデジタルツールの導入支援補助が十分に生かされるように注力されたい。

さらに、地域公共交通活性化協議会は、行政、利用者、事業者が三位一体となって、公共交通を守る大事な協議会であり、調査をしっかりと行い、持続可能な公共交通となる計画の策定を要望する。

以上を要望し、産業建設委員会に審査付託された部分については賛成する、との意見がありました。

以上、審査の結果、賛成多数により原案のとおり可決すべきものと決定いたしましたのでご報告いたします。

議案第17号「令和4年度 岡谷市地域開発事業特別会計予算」につきましては、審査の結果、原案のとおり可決すべきものと決定いたしましたのでご報告いたします。

議案第18号「令和4年度 岡谷市分収造林事業特別会計予算」につきましては、審査の結果、原案のとおり可決すべきものと決定いたしましたのでご報告いたします。

議案第20号「令和4年度 岡谷市温泉事業特別会計予算」につきましては、審査の結果、原案のとおり可決すべきものと決定いたしましたのでご報告いたします。

次に、議案第23号「令和4年度 岡谷市水道事業会計予算」について、審査の主な点をご報告いたします。

はじめに、委員より、水道事業経営戦略策定事業の見直しについて質疑があり、見直しは、令和5年度から令和7年度の3年間の料金体系の検討に合わせ見直しするものであり、今後の財政計画を推計しながら検討したい。とのことでありました。

また、委員より、水道料金を改定する判断材料はどのようなものかとの質疑があり、さまざまな要素があるが、純利益や補填財源が確保できることなどが、一つの判断材料となってくると考えている。とのことでありました。

さらに、委員より、水道事業経営戦略の見直しや料金体系の検討について質疑

があり、審議会を開催する中で11月までには方向性を決め、議会へも報告しながら12月には公表したいと考えている。とのことであります。

次に、委員より、職員の技術継承について質疑があり、水道事業では、水道管の埋設、配水管、水源等の管理など専門性が高く、知識や経験が必要な部分があるが、現在は、監視システムやGISといったシステム導入が進められている。システム管理で不足する部分については、中堅職員と比較的若手の職員が2人体制で業務に従事しているほか、マニュアル等の作成を進め技術の継承を図っている。とのことであります。

次に、委員より、水道施設再構築事業について、課題をどのように計画に反映させていくのかとの質疑があり、水道事業基本計画が平成27年度に策定され、6年を経過する中で、当初の計画よりも片間町ポンプ場築造工事の工事費が増加していることなど、計画と多少乖離があることから、水道事業実施計画について時点修正をしてまいりたい。とのことであります。

次に、討論について報告いたします。

今後を見据えた岡谷市水道事業基本計画に基づき、安全・安心な水の安定供給を行うための水道施設更新事業、水道施設の老朽化への対応や、施設の配水区域の再編成に伴う施設の再構築事業、重要管路の耐震化事業等が盛り込まれている。

人口減少による給水量の減少は、今後、より深刻な問題となっていくことが予測されるが、次世代につなぐ水道事業の構築と安全で安心なおいしい水の安定供給のため、より一層の取り組みと令和4年度に予定している水道料金の見直しについては、令和3年度の決算含め、施設の維持管理及び運営資金や純利益確保の経営状況から判断していただくことを要望し、本議案に賛成する。との意見がありました。

以上、審査の結果、原案のとおり可決すべきものと決定いたしましたので、ご報告いたします。

次に、議案第24号「令和4年度 岡谷市下水道事業会計予算」について、審査の主な点をご報告いたします。

はじめに、委員より、業務予定量における年間排水量の増の要因について質疑があり、市内事業者において井戸水を使用し、工場内処理を行い河川放流してい

たものが、下水道へ接続されたことなどによる増を見込んだことが大きな要因である。とのことであります。

次に、委員より、諏訪湖流域下水道維持管理負担金の負担単価の増の理由について質疑があり、諏訪湖流域下水道事務所では、処理水を諏訪湖に放流するための管の修繕と処理の過程で発生するガスを蓄えるガスタンクの修繕を計画しており、県と関係市町村の協定に基づき負担金が増となる見込みである。それに伴い負担金単価も増の改定となったものである。とのことであります。

また、委員より、「下水道雨水渠整備事業」について、引き続き行われるのかとの質疑があり、「塚間川流域浸水被害対策プラン」に基づき、令和4年度は、1,200ミリメートルの鉄筋コンクリートの管を100メートル設置し、令和5年度の完了を目指している。とのことであります。

次に、討論について報告いたします。

下水道事業は、岡谷市下水道事業経営戦略に基づき、公共下水道管理事業をはじめ、国の補助事業制度を活用し、下水道総合地震対策事業や下水道ストックマネジメント事業の推進が図られている。

引き続き、市民の安心な暮らしを支える下水道事業を継続していただくことを要望し、本議案に賛成する。との意見がありました。

以上、審査の結果、原案のとおり可決すべきものと決定いたしましたので、ご報告いたします。

報告は以上であります。